

破砕業に係る事業計画

※本例はあくまで一つの記入例であるため、各自の事業実態に即して記入すること。

1. 事業の全体計画(業務を行う時間、従業員数、休業日、扱

<p><b>【破砕前処理業者の記入例】</b> 解体業者から、解体自動車を引取り、〇〇を用いて圧縮(せん断)を行い、破砕業者に引き渡す。</p> <p><b>【破砕処理業者の記入例】</b> 解体業者から解体自動車を引取り、シュレッディングマシンで破砕後、鉄、非鉄、ASRに分別する。一部解体自動車をプレスして鉄スクラップ原料とする。分別・処理した物品の扱いは次のとおり。                  ○鉄……電炉メーカーに売却                            輸出業者に売却                  ○非鉄金属…非鉄金属商社に売却                  ○ASR…自動車メーカー等の指定する引取場所に引渡</p>							
業務時間	9:00	～	17:00	従業員数	20 人	休業日	日・祝祭日

2. 直近3年間の解体自動車等の引取実績及び計画

年 度	令和〇年度実績	令和〇年度実績	令和〇年度実績	許可取得後の年間計画
引取台数	20,000 台	22,000 台	24,000 台	25,000 台
主な引取先	解体業者等	解体業者等	解体業者等	解体業者等

3. 破砕実績

年 度	令和〇年度実績	令和〇年度実績	令和〇年度実績	許可取得後の年間計画
年間処理実績	20,000 台/年	22,000 台/年	22,000 台/年	25,000 台/年
年間稼働日数	280 日/年	280 日/年	280 日/年	280 日/年
平均処理実績	71 台/日	79 台/日	79 台/日	89 台/日

4. 破砕等能力

1日当処理能力	年間稼働予定日数	年間処理能力
100 台/日	280 日	28,000 台/年

5. 保管の状況

解体自動車	シュレッダーダスト
保管量の上限 1200 台 ( 台)	保管量の上限 7000 m <sup>3</sup>
現在保管量 1000 台 ( 台)	現在保管量 1000 m <sup>3</sup>

※事業所以外の場所で保管している場合は、台数を( )内に記入すること。

## 破産業に係る収支見種

※本例はあくまで一つの記入例であるため、各自の事業実態に即して記入すること。

## 1. 年間収支見積書

項 目		前 年 度 ( ** 年 )		今年度見込み ( ** 年 )	
		【 決 算 月 ( * 月 ) 】		【 決 算 月 ( * 月 ) 】	
		年 度 (千円)	(1台当) (円)	年 度 (千円)	(1台当) (円)
売上高(全体)	ア(総売上収入)	276,000	12,000	524,000	20,000
売上原価	イ(解体自動車購入費)	120,000	5,000	75,000	3,000
その他経費	ウ	134,550	5,850	117,900	4,500
うち廃棄物処理委託費	エ	92,000	4,000	26,200	1,000
営業収益	オ=ア-イ-ウ	21,450	1,150	331,100	12,500
営業外損益	カ(主に支払利息)	-3,000	-130	-3,000	-115
経常利益	キ=オ+カ	18,450	1,020	328,100	12,385
解体自動車等年間引取台数		24,000 台		25,000 台	
解体自動車等年間処理台数		23,000 台		26,200 台	

## 2. 参考事項

	前 年 度 末	現 在
負債総額：年度末残高(千円)	100,000	100,000

(注) ① 「1台当」額は、売上原価は引取台数で、その他は処理台数で割ること。

② 使用済自動車等購入費は、最終所有者から購入した場合にはプラス、引取・処分料金を徴収した場合にはマイナスで計上すること。

③ 支払利息のみの場合又は支払利息が受取利息より多い場合は、マイナスで計上すること。